

令和3年3月16日

日立理科クラブ通信

No. 153



日立理科クラブ

理数アカデミー 合同修了式

3月14日(日)、理数アカデミーの12回目の合同修了式が、教育プラザで行われました。コロナ禍のため、受講生は例年より少なめでしたが、1年間の出席率は過去最高に近い数値で、一人一人の受講生の意気込みの高さが伺われました。窪田教育部長からの祝辞、瀧澤代表からのあいさつを受け、河原子中3年小林沙樹さんから次のような謝辞が述べられました。「私は、理数アカデミーを3年間受講しました。理科コースでは、学校の応用から専門的分野まで学びました。数学コースでは、工夫された作業で難しいことも理解でき、数学検定の指導も受けました。自由研究では、機材の準備、実験、発表、論文のまとめまで学ぶことができ、研究者の卵になれたと思います。また、背景を勉強し、私たちの将来にかかわるSDGsについても知ることができました。新型コロナ禍で制限のある中、オンライン授業や、ビデオ発表なども経験でき、将来大いに役に立つと思います。



学習全体を支援いただいた教育委員会の先生方、ジュニアドクター育成塾の東京大学の先生方、実験などの指導をいただいた日立理科クラブの講師の方々、受講生を代表し感謝申し上げます。最後に、後輩の皆さん、部活も頑張り、文武両道、理数アカデミーで楽しく学んでください。」3年間、受講した小林さんの力強い思いや学びの体験が、言葉の一つ一つに表れていました。



理数アカデミーの総括として、各コースの代表(鈴置・宮寺・金丸)講師から、一年間の活動の様子、受講生の出席率や特別賞の報告があり、それぞれの受賞代表の受講生が授与されました。また、ジュニアドクター育成塾の活動については、東京大学の先生から、インターネット上で検索できることや、ネット上に立ち上げてある内容が紹介されました。そして、ジュニアドクター育成塾の修了証が、3年生3名の受講生に授与されました。



修了証には、『この経験を活かし、「自ら問うべき問い」を立てて仲間と探究できる科学者を目指して学びを深めてくださることを期待します。』と書かれてあります。

今年度は、コロナ禍のため、1月の特別授業と2月の通常授業が休校となってしまいましたので、修了式を挟んで、午前・午後に通常授業と短縮授業を実施しました。最後に、受講生たちは、理数アカデミーの活動の様子や自由研究の論文などが収まっているCDを



令和2年度・記録集CD

記念品として持ち帰りました。

受講生の皆さんのここでの学びが、確かなものとして成長の糧になることを願っています。

また、令和3年度、多くの受講生の参加を期待しています。 **がんばれ!!未来の小さな科学者!!**